

有害化学物質対策調査事業（化学物質環境モニタリング調査）

1 事業の概要

産業廃棄物等に含まれる内分泌かく乱作用の疑いのある化学物質などについて、高精度かつ高感度な測定を行うことにより、環境中での存在状況を把握するとともに、産業廃棄物の処理施設や有害化学物質を取り扱う工場等からの影響の把握に役立てています。また、継続的な調査の実施により、県内の状況の経年変化を把握しています。

2 平成30年度実績

- ・調査地点 水質15地点（河川13地点、湖沼1地点、海域1地点）
底質10地点（河川8地点、湖沼1地点、海域1地点）
- ・調査物質 残留性が高い、又は内分泌かく乱作用が疑われる25物質
（例：PCB、DDT、PFOS、ビスフェノールAなど）

《試料採取の様子》



《分析の様子》



3 調査結果の評価

調査を実施した25物質のうち、水質からビスフェノールA等12物質、底質からDDT等17物質が検出されました。

調査を実施した化学物質による人体への影響については、未解明な部分が多く評価を行える状況にはありませんが、今回の調査結果は、環境省等が実施している全国の調査結果の範囲内でした。

【関連のページ】

化学物質環境モニタリング調査

URL：<http://www.pref.okayama.jp/page/detail-92488.html>

担当部署：環境文化部 環境管理課 化学物質対策班